

## 2008年冬鳥ウォッチ報告

NPO法人バードリサーチ

冬鳥ウォッチも3年目を迎えました。今年は、例年になく暖冬とのことでしたが、冬鳥の渡来状況はどうだったのでしょうか。バードリサーチニュース4月号でいち早く今冬はアトリが多かったことを簡単に報告しましたが、アトリを含め冬鳥たちの渡来状況について、以下に報告いたします。



### 記録状況

今冬は、2009年4月26日時点で43名の方から合計89件の情報が寄せられました。2006年が41件、2007年が75件でしたので、情報件数は、年々少しずつ増加傾向にあります。調査地点の地域別内訳は、図1に示すように、関東・東海地方が最も多く、全体の57%、次いで多かったのが中部地方と九州地方でそれぞれ15.7%と10%でした。一方、東北地方からは、2件(2.2%)だけでした。さらに、中国・四国地方からは残念ながら情報はありませんでした。

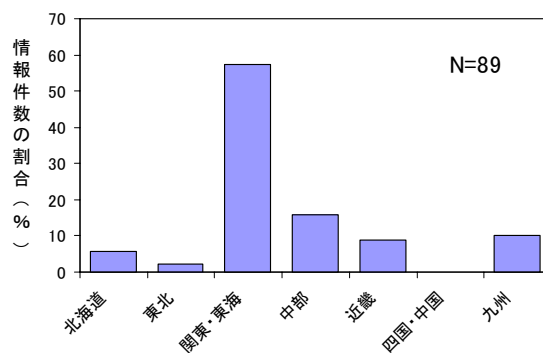


図1. 2008年冬の地域別情報件数

記録種は、今年も6種すべてが記録されました(図2)。情報件数が最も多かったのはカワラヒワで48件(28.7%)、次に多かったのがアトリで40件(24%)、カシラダカ35件(21.0%)、マヒワ26件(15.6%)の順でした。バードリサーチニュースの速報でもお知らせしましたが、アトリは2006年の冬が10件(13.5%)、2007年が20件(14.5%)でしたので、今冬はいかに多く記録されたのかがわかります。一方、ハギマシコとイスカの情報件数は、例年通り前出の4種に比べると少ないものの、それでもイスカは7件(4.2%)あり、過去2年に比べると多く記録されました。

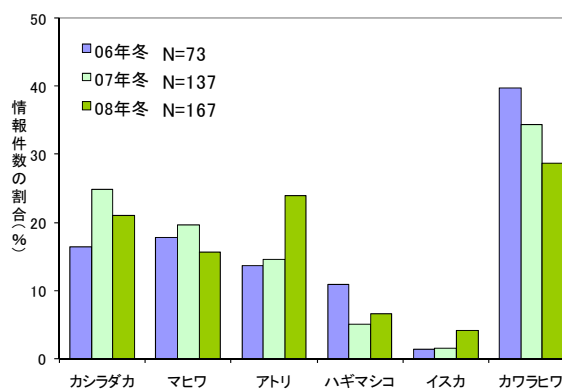


図2. 調査対象種の3シーズンの情報件数の推移

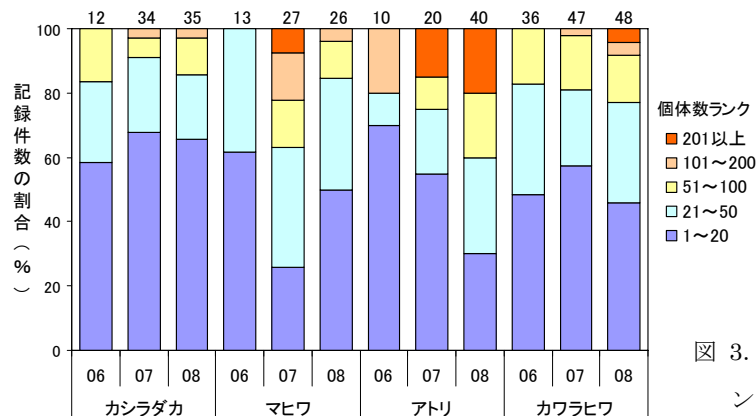


図 3. 主な 4 種の 3 シーズンの個体数ランク別の比較

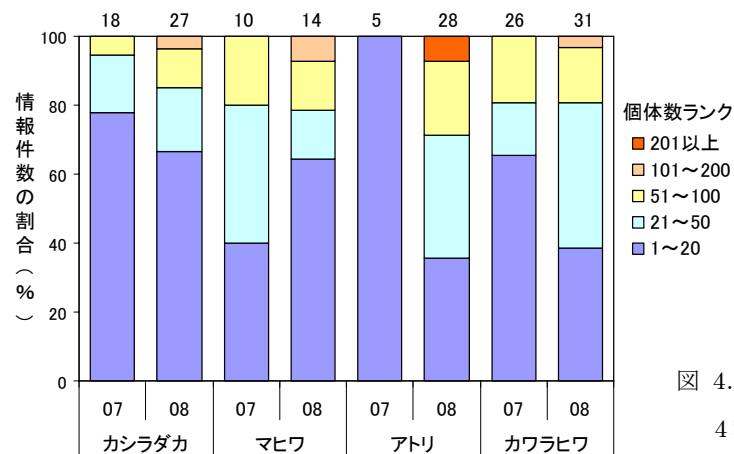


図 4. 関東・東海地方の 2 シーズンの主な 4 種の個体数ランク別の比較

## 個体数ランク

図 3 に記録件数の少なかったハギマシコとイスカを除いた 4 種の個体数ランク別の記録状況の経年変化をまとめました。また、図 4 には、情報件数の多かった関東・東海地方の 2007 年と 2008 年の個体数ランク別の記録状況を図示しました。

これらを見るとカシラダカは、情報件数は昨年とほぼ同じで、201 羽以上のランクを除く 4 ランクで記録されました。個体数ランクを昨年と比較すると今年は 51~100 羽のランクがやや多く記録されました。このことは、関東・東海地方だけを比較しても同じ傾向がありました。

マヒワは、情報件数では昨年とほぼ同じでしたが、個体数ランクの記録状況をみると、今年では 1~20 羽の小さな群れの情報が増加した一方で、101~200 羽と 201 羽以上の大きな群れがほとんど記録されず、101~200 羽の群れもわずか 1 件だけでした。ただ、今年、昨年 101 羽以上の大きな群れが報告された東北地方からの情報がほとんどなかったことから、この違いは情報の地域的な偏りが理由の可能性も考えられます。一方、情報件数が多かった関東・東海地方の昨年と今年の記録状況をみてみると、やはり今年は 1~20 羽の小さな群れが多く、21~50 羽の群れが少ないことがわかりました。したがって、今冬の

マヒワは、昨年より渡来数がやや少なかったのかもしれませんが。

アトリは、情報件数が増えたことに加えて、1~20羽の小さな群れの割合が減るとともに、それ以上のすべての個体数ランクで増加しました。九州地方など一部の地域では5,000羽や10,000羽の大群が数か所で記録されました。ただ、報告者の方によると調査地間の距離が近いと、一つの群れが分散して観察された可能性があるとのことでした。また、関東・東海地方でも記録件数は多く、昨年は1~20羽の小さな群れが5件のみだったのが、今年は28件も報告があり、神奈川県では500羽の群れが観察されました。さらに、東京都や栃木県では都市公園でも30羽前後の群れが観察され、冬中生息していました。一方、中部地方では、昨年200羽前後の群れが観察されましたが、今年は大きな群れの報告はありません。とすると、中部地方などでは大きな群れは飛来しなかったのかもしれませんが。

カラヒワは、情報件数は昨年とほぼ同じで、報告された個体数ランクもあまり違いがありませんでした。しかし、21~50羽のランクがやや増えたことと、201羽以上のランクが報告されたことが、昨年と少し違う点です。同様の傾向は、関東・東海地方の昨年と今年の個体数ランクの割合からも見てとれます。

ハギマシコは、昨年はそれぞれのランクの件数こそ少なかったものの、すべての個体数ランクが記録されました。しかし、今年は情報件数こそ11件と昨年の7件より多かったです。個体数ランクは11件中9件では1~20羽と21~50羽で、51~100羽および101~200羽はそれぞれ1件のみでした。ハギマシコは生息環境が他の冬鳥より限られているため情報件数も少なく、なかなか全体の傾向を把握しづらい鳥ですが、今年の渡来数はあまり多くなかったのではないかと推測されます。

一方、イスカは情報件数が7件と過去最高となり、個体数ランクこそ大きな群れが記録されませんでした。21~50羽の群れが4件記録されました。今年は、イスカの渡来が例年よりやや多かったのかもしれませんが。

ところで、ハギマシコとイスカの3シーズンの地域別情報件数は地域によって多少異なりますが、これらの種は北海道から中部地方で記録され、近畿地方以西では現在のところ記録されておらず、他の冬鳥とはやや異なっていました。これら2種は日本の中部から北の地域に多い冬鳥なのでしょうか。

## 最後に

以上のように、今冬はハギマシコを除くと、アトリに限らず調査対象種の多くの種で渡来数が多かったと言えそうです。今冬は例年になく暖冬ということで、冬鳥たちがあまり南へ渡らず、関東地方や中部地方に留まっていたためかもしれません。それから、栃木県の公園でアトリたちを観察していて気付いたのですが、昨秋はケヤキやカエデの実が当たり年、どの木にもたくさん実が付いていました。アトリは、12月ぐらいまではケヤキの実に群れて採食し、年が変わって2月ごろになって枝先に木の実がなくなると、地上に落ちた実をシメたちと啄ばんでいました。おそらく、関東地方の市街地の公園にアトリが多

くしかも冬中観察されたのは、かれらの食物となる木の実が豊作だったことも一因と思われます。

ところで、昨年の報告書で、2007年の冬は「マヒワとアトリがちょっと当たり年」と紹介しました。今冬は、マヒワはやや少なかったものの、アトリは著しく多く渡来しました。昨年の冬のアトリのやや多い記録は、今年の渡来数の増加の予兆だったと言えるのかもしれませんが。同様に、アトリの陰に隠れていましたが、今冬はイスカの渡来数がやや増加傾向にありました。とすると、来年はイスカのピークが来るのではと、ちょっと期待しています。

冬鳥ウォッチも3年が過ぎ、今回、アトリの大群の記録や市街地での例年になく渡来状況を記録に残すことができました。そして、その渡来数の増加のパターンらしき傾向もちょっとですが見えてきました。しかし、その一方で、情報の地域的な偏りがあり、中国・四国地方のようにまったく情報がなかった地域がありました。今年のアトリの記録状況をみると、関東地方と九州地方に多く渡来した一方、中部地方はどうもアトリがさほど多くなかったようです。もしそうなら、九州の大群は中部地方を通過しただけだったのでしょうか、それとも関東地方へ飛来するルートとは別の、たとえば朝鮮半島経由のルートがあるのでしょうか。もし、今回情報のなかった中国・四国地方から何らかの情報があれば、もう少しはっきりした渡来状況の地域的な傾向がわかったかもしれません。今回、情報件数が少なかった地域にお住まいの方で、冬の間調査対象種の情報をお持ちの方は、来年以降のとりまとめに役立ちますので、ご提供いただければ嬉しいかぎりです。全国から一人でも多くの方の情報をお待ちしています。

さて、来年、アトリの群れはやってくるのでしょうか。今年がピークと思っていたら来年はさらに上に行く大群が飛来し、関東でも10,000羽ものアトリが記録されるのでしょうか。イスカは、はかない夢に終わってしまうのでしょうか。今年の冬が楽しみです。ぜひ、来シーズンも引き続きご協力ください。なお、担当者から情報の提供をお願いするかもしれませんが、その際には宜しくお願いいたします。

末尾ながら、今回情報をご提供いただいた皆様のご芳名を以下に記してお礼に代えさせていただきます。

新井清雄，石田スーザン，一倉行雄，井灘志げ子，井上賢三郎，今森達也，上野尚博，内田博，大神田真吾，奥田萌，小澤健，香川正行，梶本恭子，金子凱彦，神永功，木村有紀，久保清司，黒沢令子，小林俊子，斉藤けい子，齋藤映樹，佐藤ひろみ，高橋邦年，武田光正，田中利彦，栃谷満夫，戸室樹，長嶋宏之，南波興之，西教生，二村一男，野中純，花房ゆかり，樋口弘，平野敏明，藤波不二雄，又野淳子，三浦祝子，山田昭光，山田文則，吉邨隆資，米山妙子，渡辺美郎の各氏（五十音順）。

【とりまとめ：平野敏明】